

すぎのこ

156

公益財団法人 すぎのこ芸術文化振興会

2019 10/1

事務局：〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-19-6 TEL.03-3984-2396 FAX.03-3984-2264
狭山研修センター：〒350-1315 埼玉県狭山市北入前695-1 TEL.04-2968-4721 FAX.04-2950-7706
滝沢研修センター：〒377-1611 群馬県吾妻郡滝沢村千原 TEL.0279-96-1015 FAX.0279-96-1015

2面・3面 巡回公演だより／園からの声／いいだ人形劇フェスタ／夏休みKIDSフェスティバルを終えて
4面 日本芸術文化振興会助成事業／国立青少年教育振興機構助成事業／「演育」キャラクターが決定 ほか

<http://www.suginoko.org/>

E-mail: support@suginoko.org

公益財団法人として 劇団すぎのことして

理事長 大場 隆志

すぎのこ芸術文化振興会の理事長に就任してから二年が経過しました。私は劇団業界の経験は短く、異業種からこの業界にまいりましたが、アウトサイダーの間人だからこそ見える視点や発想もあります。

これから時代が大きく変化していく中で、創立して五十六年を迎える劇団としての可能性、公益財団法人としての可能性をどのように発揮し、新しい価値を創造していくのかという命題に、新しい視点で更なる発展を遂げていきたいと思っています。

劇団すぎのこが誕生する十年前の一九五四年に、当時五十二歳だったレイ・ロックという男性はミルクセーキ用のミキサーを売るために全米を旅していました。その時にロサンゼルス東部の町で出会ったのが、マクドナルド兄弟のハンバーガー・レストランでした。

セルフサービスによる効率的なオペレーションに感心したレイ・ロックは、チェーン化したという夢を抱き、マクドナルドをフランチャイズ化し、現在の全世界的に有名なマクドナルドを創り上げました。

ここで学びたいのは、五十二歳から始めたということ、その年

齢とは思えないほどの不屈の精神とベンチャー企業家としての活力であると思います。そして彼はこんな言葉を残しています。

Be daring (大胆に勇気をもつ) Be first (誰よりも先に) Be different (人と違ったことを)

彼はもともと飲食業界の間人ではありませんでしたが、アウトサイダーとしての客観的な目で事業の将来性に注目し、マクドナルドの可能性を見抜いていました。また、一九五〇年代は商品に価値はあっても、ノウハウは「タダ」でお金になるという常識はなかった時代に、経営ノウハウや権利に価値があるということを理解していたということになります。

余談ですが、第一次世界大戦を経験したレイ・ロックの同じ軍隊に配属され、宿舎で絵ばかりを描いていて変わり者と言われていたのが、あのウォルト・ディズニーだったようです。その二人が後にアメリカを代表する大企業を創り出すとは、その時、誰も想像しなかったでしょう。

新しいことをやると私の場合、四年に一回くらい困難な事態にぶちあたり、そうすると銀行や一部取引先から叩かれることがよくあります。だから非難に対して自分

自身が強くなっていかなければ、新しいことにチャレンジすることはできません。格闘家がリングに上がって闘うと、よろけて、膝をついたりするし、ダウンすることだってあります。

そうするとあの格闘家はダメだとか練習が足りないとか、才能がないとか、こてんぱんに言われます。まして、試合に負けたら、よ

くやったと讃えてくれる人なんてほとんどいません。でも格闘家にとって試合を観に来てくれた人はファンであり、試合を観てくれただけで、格闘家はありがたいと思わないといけないと思います。チャレンジすることができただけでも幸せだと言えます。そして観てくれるファンがいるから、私もこうして続けることができたと思っています。

真剣に経営している会社は「ひよつとしたら自分の会社は駄目になるかもしれない」という危機感



すぎのこは創立55周年を迎えました。

を持ちながら経営しています。今ほどに優良企業と言われていた会社でも、必ず過去にはそういう体験をしているはず。良い会社はそれが当たり前。では、どうやって、苦しい時期を乗り越えて、会社の信用力を高め、更なる発展を遂げていくのか。

それが劇団としての可能性、公益財団法人としての可能性をどのように発揮し、新しい価値を創造していくのかということになります。

劇団としての可能性は、夢はあるが夢で飯を食うのは難しいといわれている業界ですが、一つの劇団だけではなく、多くの劇団が持っている価値を融合していけるような劇団同士の相互依存関係を築き、新しい価値を創造していくこと。公益財団法人としての可能性は、演劇を鑑賞するものから演劇的手法を教育にすることで新しい価値を創造し、「演育」として普及発展させていくことだと思っております。

今は厳しい状況ですが、世の中のニーズが減少しているのではなく、私たちがまだその素晴らしさと喜びを世の中の人に伝えられていないだけだと私は確信しています。

これからも公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会は、劇団員一人一人が夢を抱き、あえてリスクを背負い、夢を叶えるために邁進し、新しい価値を創造してまいりますので、どうぞ、これからも皆様ますますのご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

巡回公演だより

ももたろう

班

長谷川 唯



観劇が終わり、人形でお見送り。ももたろうの小さな手と子どもの手がピタリと重なり、子どもの小ささを実感する。子どもたち目線の人形は、私たち大人が思う以上の大きさを目の前に存在している。同じ場にいるのに、そこには子どもにしか見えない世界がある。

自分の幼少期を思い出して、も、身の回りのものが大きく、大人をとてても遠い存在だと思っていた。でも大人になった今、子どもの頃にしか味わうことのできない新鮮さをうらやましく思う。その新鮮な感覚こそ、表現する上で大切なのだ。

演技とは無意識を意識的に演じること。演技をすると先入観で型にはまったりアクションや、会話

の中で、作られた「間」が生まれる。いかにリアルタイムの出来事(その時に生まれた言葉、動き)のように見せられるかで、説得力の差が出るのだと思う。

日々の公演で同じ台詞を言ったり、動きをしていると感情が鈍っていくが、子どもたちの新鮮なものを見る瞳が「ももたろうは、リアルタイムで感情が動き冒険しているのだ」という気持ちを思い起こさせてくれる。

開演前、気持ちをリセットして、みんなにとって初めての時間が始まる。

三まいのおふだ

班

野見山 大輔

やまんばは人間を食べる怖い妖怪である。しかし演出は、「やまんばは山の神」と言う。なるほど、人間に恐れられることで、山を守っていたとも言える。

山は本来、けものやもののけの



「宝宝 (baobao)」と呼び、可愛がります。「子どもは宝」だと言うのは、どの国も変わりません。この巡回公演で、子どもたちの笑顔を見るたびに、その思いは強くなりました。

まだ小さな赤ちゃんたちも驚くほ

住む地を意味した。反対に人間の住む地を里、人間とけもの・ものけが共存可能な地を野、と呼んだ。開拓しやすい場所から人間が縄張りを広げる中、いつしか高く隆起した場所を、山と意味するようになった。

僕は、宮沢賢治『狼森と笹森、盗森』の冒頭シーンが大好きだ。入植した人間が先ず森と対話し、「畑を作る」「木を分けてもらう」等の了承を得る。いにしへの習わしの描写が。

山の上の方まで開発が進んでいく。山の破壊は止まらない。

このつきなあと

班

霍 猛

「このつきなあと」班は、1学期、北海道を巡回公演していました。私は巡回公演をしながら、北海道と風土の似ている、故郷の中国内モンゴルを思い出しました。

中国では小さな子どものことを

園からの声

三まいのおふだ

杉の子保育園(佐賀県多久市)

「三まいのおふだ」という作品はやまんばが出てくるので、泣いてしまう子が多いかと思いましたが、とてもおもしろく、舞台転換もすてきで見入っていました。小坊主さんとの約束を子どもたちも忘れずにいて欲しいと思います。

■殿の浦登見園(佐賀県唐津市)

三人という少人数で演じられていましたが、演技力や舞台装置は圧巻です。今回は歌唱力の素晴らしさも感動しました。子どもたちも視線を外すことなく、集中して観ていました。子どもも大人も十分に楽しめました。

はだかの王様

緑ヶ丘保育園(福井県福井市)

内容は少し難しかったかもしれませんが、お話が始まると子どもたちは人形に釘付け! 拍手をしたり返事をしたりと、劇の中にも自然と入っていました。終わった後「楽しかった!」「また観たい」と感想を話していました。私たち保育者もとても勉強になりました。

■宮内中央子ども園(新潟県長岡市)

知っているお話なので、子どもたちの中に入ると入り、よく観ていたと思います。2歳児が、思っていたよりよく観ていました。人形の動きや、声、間、いろいろと感じていたと思います。

いただいたお手紙をさっそく貼ると、喜んで集まって見えています。お帰りの時には、おうちの人

ももたろう

吉岡町第五保育園(群馬県北群馬郡吉岡町)

子どもたちのよく知っているお話なので、「ももたろう」を選びました。三人の劇団の方が、一人で何役もされていて、声の出し方や演技方など、とてもユニークで楽しく観せていただきました。乳児も泣きながらも、観ることができました。

■あゆみ保育園(茨城県常陸大宮市)

楽しい時間をありがとうございました。三人の役者さんが、何役も演じていてすごかったです。子どもたちも、自然と手拍子が出たりして、物語に入り込んでいました。

このつきなあと

北の星東札幌保育園(北海道札幌市)

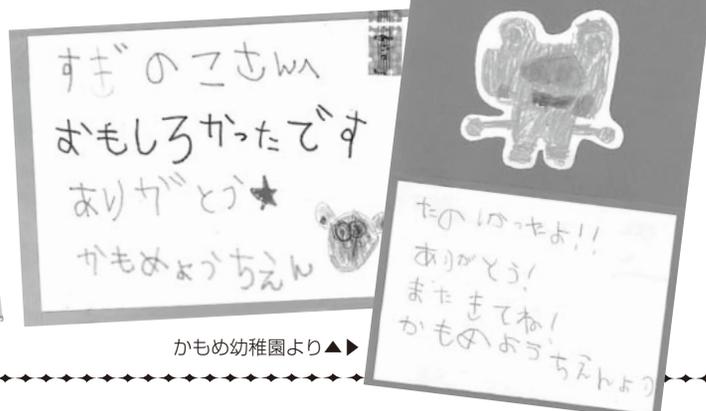
人形劇を観る機会がありませんので、子どもたちは集中して観ていました。「このつきなあと」の中には、鬼など子どもたちにとって怖いものが出てきていましたが、そんなことに関係なく子どもたちは集中して観ていましたし、人形もあまり怖くないように作ってあったので、楽しく見ることができました。



▲ささやのぞみ保育園より



▲のぞみの森保育園より



▲かもめ幼稚園より

にも「見て見て」と言って、人形劇の話をしていました。みんなと一緒に観たことで、子どもたちのいろいろな姿も見え、とてもよかったです。

■上ノ国保育所(北海道檜山郡上ノ国町)

今回の公演は「うさぎとかめ」と「このつきなあと」の二本でした。年齢の低い子どもたちには、10分程の「うさぎとかめ」はけっこう集中もできて、楽しめていたようです。ノリノリで手拍子している子も見られました。また、年齢の高い子どもたちは、「このつきなあと」の中の繰り返しで、次は何に化けて出てくるか予想しながら観ることができたのが、楽しめていたようです。



ど、人形劇に集中して観てくれます。少し大きな子どもたちは人形劇を観ながら泣いたり、笑ったり。そして上演後に人形を持って行くくと、「また来てね」と、嬉しそうに言いに来てくれます。それは私たちの力になります。

私が幼い頃、故郷の町に劇団が来て観に行ったことがあります。その時に感じたワクワクした気持ちを、すぎのこの人形劇を観た子どもたちも感じてくれていたらいいなと思います。

9月からは、九州地方を巡回公演しています。九州の子どもたちにも、楽しい思い出届けられるよう、班のメンバーで日々意見を出し合い、子どもたちの心に伝わる人形劇にしようと精進していきます。

はだかの王様 班

吉田 薫

「はだかの王さま」の作品では、ファクションに悩む王さま、天真爛漫なお妃さま、至極まじめな大臣に口達者な詐欺師と、様々な大人が出てきますが、一番のキーパーソンはやはり唯一真実を告げている「子ども」です。

実はこの作品、園児に交じって学童がいるかいかで、リアクションが違ってきます。園児だけだと「子ども」に同調し、詐欺師の「見える？見えない？」の問いかけに「見えなーい！」と言う子が多くみられます。ところがそ



こに学童のお兄さんお姉さんが加わると、「見えない」の声に交じって「見えるよー」と言う声も聞こえてくるのです。面白いですね。もちろん素直な表現、純粋な心というのは忘れたくないのですが、そこが交じって、人の気持ちをおもんばかり程度に発言が出てくることも、一つの成長のかなあと考えると、「はだかの王さま」という作品の別の視点からの深みが増すようで、楽しいなあと素直に思う今日この頃なのです。

いいだ人形劇フェスタ

今年のいいだ人形劇フェスタは、日中は暑く、夕方は雷鳴を伴って短時間に激しく大粒の雨が降る中、スパーやコンビニで熱中症にならないように涼みながら、アマチュアやセミプロ的な個人や団体を数ヶ所で観劇させていただきました。

まず最初に感じたことは、演じるみなさんが、周囲の感情や物事にあまり縛られず、美術はともかく、のびのびと人形操作をして、生き生きとし楽しく演じている、

その姿に初心に帰るような清々しい感動を覚えました。感謝の一言に尽きます。

各園の個性、地域差なども考慮し、また原作から逸脱しすぎないようにおさえたりする段階で劇団の色が出てくるのですが、私たちは、公演先のみなさんが、楽しく喜んでホンワカと幸せになってくれるような作品を、劇団員一同精進して作っています。しかし、まだまだ勉強中の身。いいだ人形劇フェスタで直接に触れたままの生

夏休み KIDSフェスティバル を終えて

8月18日、ソプラテイク・劇団飛行船・そして私たちすぎのこによる初めての共同イベント、「夏休みKIDSフェスティバル」を開催しました。

当日は非常に暑く、熱中症などの危惧もありましたが、無事、大きな事故もなく好評のうちに



終わったことは、とても良かったと思います。

今回のイベントの内容として、ソプラテイクはダンススクールの生徒や地元のダンスチーム等の発表や当日の縁日での商品販売、劇団飛行船は参加型ミュージカルのワークショップと自由



参加のお面づくり、すぎのこは人形劇とハンカチ人形作りのワークショップ、それぞれの特色を前面に打ち出した企画を行い、足を運んでくださったご家族やお客様に大変楽しんでいただけたかと思えます。

3団体の協力のもと、成功を収めることができましたが、これに満足して終わらせるのではなく、今後も力を合わせ、様々なイベントを行っていただければと思っています。

(太田 令)

生き生きした人形や演技を肥やしにして、これからも前に進みたいと思います！

(小杉 正繁)

今年も長野県で開催されたいいいだ人形劇フェスタに、「はだかの王さま」の作品が参加してきました。

今年、今年のフェスタも連日日差しが強く、俳優もお客さんも汗だく、かと思いきや突然の雷雨でみんなびしょぬれ！とお天気にほんろうされることもありました。

ですが、上郷の地域のみなさまの温かいご支援のおかげで、とても楽しく上演することができました。おいしい桃やお漬物もいただいていた心もおなかも大満足！みんなで一大イベントを乗り越えられた充実感、いつもの公演とは違う喜びがあります。

子どもたちの元気な笑顔、たくさんの人形劇団のパフォーマンス、全ての出来事がこれからの私たちの創作活動へのとてもいい刺激になること間違いなし！ また来年



(吉田 薫)

独立行政法人 日本芸術文化振興会 助成事業



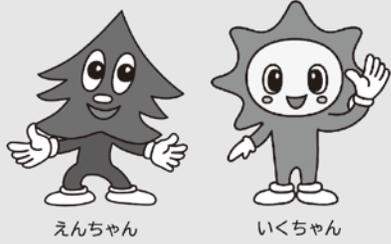
「はだかの王様」全国巡回公演につきまして

「はだかの王様」は、独立行政法人日本芸術文化振興会「平成31年度芸術文化振興基金」の助成事業として、1学期に新潟・北陸地方にて80公演を行いました。ご観劇いただいた皆様には、心より感謝申し上げます。2学期は東北地方、3学期は近畿地方と九州地方におうかがいいたしますので、ぜひこの機会にごらんください。

【今後の予定】

- 2019年度
2学期 東北地方
3学期 近畿地方・九州地方
2020年度
1学期 北海道地方
2学期 九州地方
3学期 首都圏
2021年度
1学期 九州地方

「演育」キャラクターが決定



この度、すぎのこの演劇教育「演育」のキャラクターが決定いたしました。

すぎのこのおなじみのキャラクター“すくすく”、またの名を「えんちゃん」と、太陽をイメージした「いくちゃん」。陽ざしを浴びてすくすく育つ杉の木のように、演育を通じて、柔らかくて強い、自立した大人に育って欲しい、という想いを込めて作りました。

現在、えんちゃん、いくちゃんの人形を製作しています。来年度以降、皆さまのもとに二人がおじゃまいたしますので、よろしくお願いたします。



(福島 亜紀)

独立行政法人 国立青少年教育振興機構

National Institution For Youth Education 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 「子どもゆめ基金助成活動」



昔話読み聞かせ・人形劇フェスティバルを開催しました！

「昔話読み聞かせ・人形劇フェスティバル」を、スポーツ&スパリゾート ソプラティコ狭山 フットサルコート場に於いて、8月24日に開催いたしました。このフェスティバルは、独立行政法人国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金の助成を受け、開催が実現したものです。



夏休みということもあり、埼玉県内だけではなく、県外からもたくさんのお子様とご保護者の皆さんがご来場くださいました。このフェスティバルでは、「このつぎなあに」「はだかの王様」「三まいのおふだ」「ももたろう」の昔話を題材として、本の紹介・読み聞かせ・人形劇を行いました。

本の紹介では、「へえ！そんなんだ。知らなかった！」と保護者の皆さんから声があがりました。よく知っているお話も、その背景を知ると感慨深いですね。人形劇は、赤ちゃんから大人まで、手拍子をしたり、時には一緒に歌ったりして、楽しんでいただきました。上演後には、子どもたちから「もう終わっちゃうの！もう一回観たい！」と言う嬉しい言葉をもらいました。「お話の絵を描いてみよう！」のコーナーでは、子どもたちが本の紹介やお話を聞き、人形劇を観て感じた、思い思いの絵を描いてくれました。子どもたちの創造力や発想力に私たち、開催者側が驚かされました。帰り際には、「このようなフェスティバルがあったら、またぜひ来たいです」と言う声もいただきました。このフェスティバルが、お話の楽しさを伝え、子どもたちの夏の思い出の一つとなっていただけたら幸いです。今後もすぎのこは、このような子どもたちのためのイベントを開催していきたいと考えております。

独立行政法人国立青少年教育振興機構様のご支援に、心より御礼申し上げます。(浅野 茜子)



婦恋研修センター 利用報告

「すぎのこ婦恋研修センター」は今夏、群馬大学Hore Bridge Orchestraの皆様方に、ご利用いただきました。また、ご家族連れの皆様にも多数ご利用いただきました。ご利用いただきました皆様、誠にありがとうございました。

制作 たいよう

暑い夏が過ぎ、実りの秋がやってきました。

果物やお芋がとてもおいしく、少しづつ染まってゆく山のもみじも美しく、過ごしやすいこの季節

は、日本に暮らす幸せをかみしめます。

運動会、遠足など、子どもたちが楽しみな行事もいっぱいですね。日常の中にも、さまざまな種類のどんぐりを集めたり、栗ひろいやお芋掘りをしたり、子どもたちの周りには、秋がしっかりと息づいています。そんな子どもたちの近くでできる人形劇は、とてもい

い仕事だと思えます。

現在の巡回作品も、「このつぎなあに」や「三まいのおふだ」では、秋を感じるシーンがあります。大人になると、忙しさに紛れて忘れてしまいがちな日本という風土のもつ良さを、丁寧に伝えていけるような作品を、これからもお届けしたいと思えます。(榎本 千里)

活動記録(令和元年8月)

- 8/3 しいだ人形劇フェスタ参加 「はだかの王様」 於・飯沼南自治会館(長野県飯田市)
8/9 第一学期全国巡回公演終了 夏休みKIDSフェスティバル参加 於・ソプラティコ狭山
8/24 昔話読み聞かせ・人形劇フェスティバル 於・ソプラティコ狭山
8/26 第二学期全国巡回公演開始